

## 芽室町不登校支援システム Ver.2 概要

## 1 不登校の初期対応・中長期対応を、組織的・計画的に

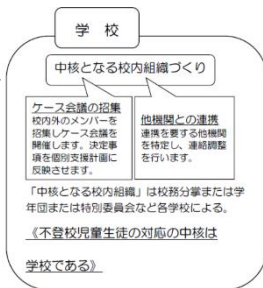
連続3日の欠席（目安）			
本人	学級担任	学年・学校	
連続3日の欠席  （連続〇日は目安であり、断続的であったり、2日であっても、他のリスク要因の大きさなどと照らして判断する）	電話連絡する  ● 本人、保護者から様子の聞き取り、家庭と連携。 ● 日課や活動に見通しを示すような口頭連絡 ● 安心させるような環境づくりを示す口頭連絡  アセスメント 以下の点を簡明に報告する事項 ● 登校に係る現状 ● ● ● ● ● 特記すべき成育歴	情報 ● 校長 対面指導 副校長 教務主任 生活指導主任 保健室長 スクールカウンセラー 社会福祉士 児童相談所 教育委員会 関係機関等へ提供し、多様な学びの保障と保護支援について協議を開始する。 ケース会議における、情報提供  詳細は 15 ページ～	
連続5日の欠席（目安）			
本人	学級担任	学年・学校	
連続5日の欠席  家庭訪問してきた担任と面談、または電話  （連続〇日は目安であり、断続的であったり、2日であっても、他のリスク要因の大きさなどと照らして判断する）	家庭訪問  ● 本人、保護者から様子の聞き取り、家庭と連携。 ● 日課や活動に見通しを示すような口頭連絡 ● 安心させるような環境づくりを示す口頭連絡  アセスメント ● チェックシート 回復度、行動機能 保護要因、リスク要因 ● 芽室町多様な学び個別支援計画の作成開始	○学級担任を支援  ケース会議 参加：保護者 担任、中核となる組織（教頭・学年・Co・養教等ベスとなる参観範囲を記載）必要に応じてスクールライフアドバイザー地域コーディネーター（子育て支援課・教育推進課）芽室町発達支援センター 等 ● 芽室町多様な学び個別支援計画の内容に準じた項目の検討：居場所・学習・復学・進路等	
欠席日数30日以上 または断続的・部分的な登校が1カ月以上			
本人	学級担任・学年・学校		
30日以上欠席  断続的な登校1カ月以上	情報共有 ● 教育委員会：スクールライフアドバイザーと経過と状況について紙面を持って情報共有を開始する。  ケース会議における、情報提供 ● 外部地域資源表を保護者へ提供し、多様な学びの保障と保護支援について協議を開始する。 ● ケース会議にはスクールライフアドバイザー等第3者の参加を開始する。		
欠席日数90日以上			
本人	学級担任・学年・学校		
登校しない、登校刺激がごく限られる生活の常態化	ケース会議 ● 保護者、学校、第3者機関（場合によっては本人も含む）のケース会議が開催され、一定期間のアプローチの指針と役割分担が更新される。 ● 個別支援計画様式の使用 ● アセスメント ● チェックシート 回復度、行動機能 保護要因、リスク要因  スクールカウンセラー（道教委派遣）との相談開始 これまでのアプローチがいったん確立化していることが予想されることから、新規アプローチのきっかけとして  型どおりでない、クリエイティブな支援		

計画的

詳細は 17 ページ～

3日間欠席、5日間欠席、30日欠席になったら、など児童生徒の様子や段階に応じて対応します。

、対応の中核となる  
校内組織を学校の中  
位置づけ、「ケース  
会議の招集」「他機  
関との連携」を担い、  
チームでの対応を  
行います。



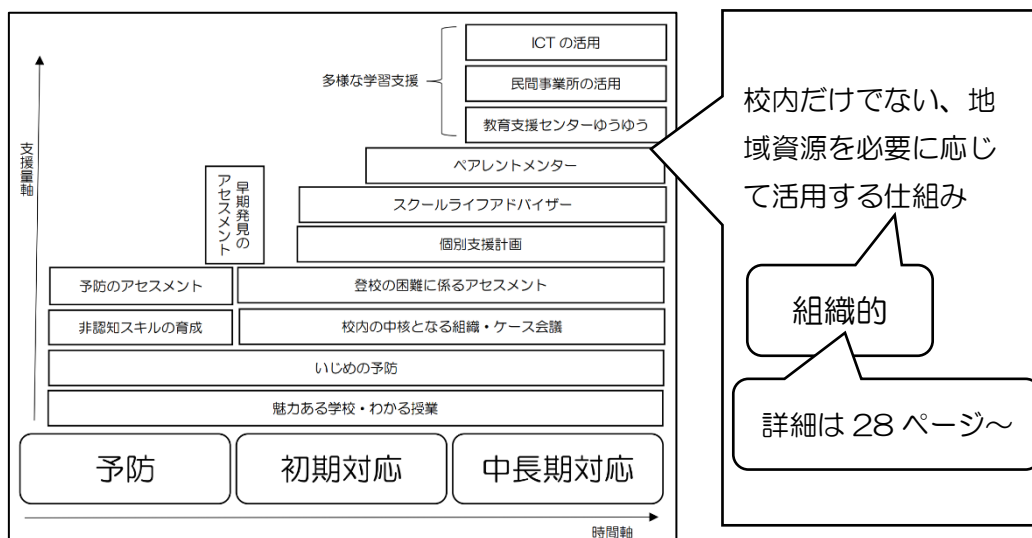
経過や対応、次の目標を、多様な学び個別支援計画へ位置づけます。

計画的

詳細は 19 ページ～

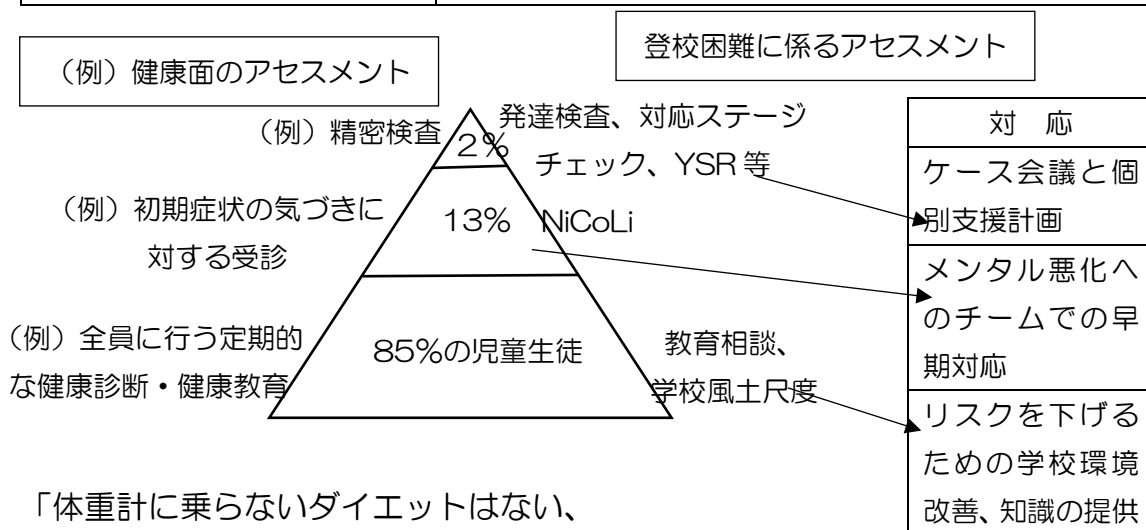
キーワード

- 不登校の対応の中核は学校である。
- 保護者を含むケース会議が、対応の方針を決める最高の意思決定機関である
- エビデンスのある、組織的・計画的な不登校支援を



## 2 アセスメントに基づくアプローチを

不登校予防のアセスメント	学校が不登校のリスク要因を減らし、保護要因を増やしているか把握するもの
不登校予兆のアセスメント	メンタルヘルスの悪化をとらえ、チーム対応を導入するためのもの
中長期対応の精度をあげるためのアセスメント	児童生徒の現在の状況や、児童生徒の特性や発達のタイプを知り、より本人に合ったアプローチをするためのもの



アセスメントにより、①不登校に係るリスク要因と保護要因の状況を把握する、②不登校の児童生徒の状況を把握する、③保護者を含むチームに共通理解・共通言語を生むことができます。